

【史料紹介】東本願寺寛政度再建における末寺募財史料

青 木 馨

ここに紹介する史料は、このほど翻刻刊行された『三河大谷派記録』に関する、東本願寺寛政度再建造営における三河教団の募財の中核をなす、「報謝講」の実態を示すもので岡崎市下青野町慈光寺に所蔵される。

『三河大谷派記録』は、真宗大谷派暮戸教会（岡崎市暮戸町）に所蔵される、東本願寺再建に関する記録を中心とした、三河門徒の二世紀にわたる記録である。内容に濃淡はあるものの、特に寛政度再建を中心とした本願寺地方門徒の動向が知られる貴重な史料であり、著者と安藤弥氏と共同で「同朋大学仏教文化研究所紀要」第二十七号（二〇〇七年刊）に史料紹介した。続いて同年、真宗大谷派岡崎教区からこの兩名の責任編集により若干の補訂増補を加え、単行本として刊行された。これを教区内全寺院に配布したところ、その後慈光寺住職より、関係史料として提示されたものが本史料である。

寛政度再建とは、天明八年（一七八八）の洛中大火により焼失した東本願寺の堂宇（御影堂・阿弥陀堂・大門）を享和元年（一八〇一）の大門落慶まで、全国門徒の尽力により成就されたもので、以後さらに三回の焼失再建を

(天保度・安政度・明治度)を繰り返す。そして三河国においては、示談(協議)のための会所を池鯉鮒宿山形屋に仮に設置し、五年を経て寛政四(一七九二)年に同所称念寺に移し、暮戸にも開設し二カ所体制として、再建事業に対処した。そしてここでは、本山への人材派遣・信州遠山における用材伐出し・募財と、大略三様の動きが見られた。

特に募財の中心は、当初「一銭講」と称し中途より「報謝講」と改称されたもので、寛政三年(一七九一)三月より同十二年十二月迄の十年間に、国内一二三カ寺で原則毎月一回法会を開催し掛銭の持寄がなされた。下青野慈光寺は、寛政六年六月十六日に開催されたことが『三河大谷派記録』にも見られ、本史料はこの時の集金額が各組ごとに明示され、六月二十九日付で本山役人二名連名で振り出された請取状である(タテ³⁶⁴イセントル紙本墨書)。

『三河大谷派記録』は、報謝講の十年間の総額金五千九百五拾五兩壹分貳朱・錢六百四拾七文が示されるのみで、個々の開催の実態は不明瞭であったが、本史料により各組の掛金に必ず女人講の掛銭が添えられていることが知られる。また一部の組では、別に「志」も加えられている。そして、開催日当日の参銭が錢三拾六貫三百文と極めて多額であり、参詣者が盛況であったことが推定される。そしてこれらの金銭を、開催寺院がその都度本山へ上納したようで、充所も「慈光寺」になっている点は注目される。

そして、本史料にも見られる「組」ごとの募財体制は、この寛政度再建事業において成立したもので、三河地域だけの動きであるかは不明瞭であるが、近代における教区・組の中央集権的組織体が成立する原初形態として、こうした点からも本史料は、興味深いものとなるであろう。

本史料は「本堂再建志」と冒頭にあり、単独にこの史料を見る限りでは阿弥陀堂再建の懇志と見違うが、『三河大谷派記録』により主に両堂再建の一環としての報謝講の一回分の寄進金員であることが知られる。単一史料のみではその内容と意味が、ともすれば明瞭とならないものを、別の関連史料との照合によりそれを見出すことが出来る好例として、史料紹介しておきたい。

なお、岡崎市慈光寺住職にはご理解とご協力に謝意を表したい。

——史料翻刻——

本堂御再建志

一、 金三両貳朱

己六月月並
報謝講掛銭

一、 銭拾六貫八百拾文

高落組

一、 金壹歩

女人講

一、 銭六貫四百壹文

一、 金貳兩

右同断

一、 銭拾七貫三拾四文

矢作組

【史料紹介】東本願寺寛政度再建における末寺募財史料

一、錢八貫四拾六文

女人講

一、金貳兩

右同斷

岡崎組

錢八貫六拾七文

一、錢三貫七拾六文

女人講

一、同卷貫五百拾文

志

一、金八兩三步

右同斷

箕輪組

錢貳百五拾文

一、金壹兩三步貳朱

女人講

錢貳百七拾貳文

一、 金三步貳朱

右同断

宝内組

一、 錢四百三拾文

一、 金貳朱

女人講

一、 錢百貳拾七文

一、 金貳兩壹步貳朱

右同断

高力組

一、 錢貳貫三百九拾四文

一、 金壹步貳朱

女人講

一、 錢壹貫百六拾九文

一、 金壹步貳朱

右同断

新郷組

一、 錢五貫三百貳拾貳文

一、 錢貳貫三百拾六文

女人講

【史料紹介】東本願寺寛政度再建における末寺募財史料

一、金貳兩貳朱

右同断

錢貳貫七百四拾文

東城組

一、錢八百三拾九文

女人講

一、同五百六拾四文

志

一、金貳兩三步

右同断

錢六百五拾壹文

知立組

一、金三步

女人講

一、錢拾四文

一、金三兩貳步

右同断

錢七拾壹文

小川組

一、 錢六貫七百貳拾四文 女人講

一、 金壹兩三歩

右同斷

乙川組

一、 錢壹貫三百三拾壹文

一、 錢壹貫百九拾四文 女人講

一、 金壹兩貳歩

右同斷

山内組

一、 錢六貫八百八拾四文

一、 金貳歩

女人講

一、 錢四百四拾九文

一、 錢壹貫六百三拾八文 志

一、金四兩貳朱

右同斷

吉良組

錢貳貫八百拾文

一、金貳朱

女人講

錢三貫九百文

金壹兩貳朱

右同斷

梅坪組

錢壹貫八百五拾七文

一、錢壹貫三百貳拾文

女人講

一、金壹兩貳步

右同斷

豊川組

錢百九拾文

一、錢壹貫九百文

女人講

一、同五百三拾九文

志

一、金壹両貳朱

錢貳貫百六文

別段志

一、錢九貫七百文

御再建志

一、同壹貫三百四拾八文

志

一、同三拾六貫三百文

当日

参銭

(通印)
印 (印文「統」)

右令披露候処、奇特

思召 御印披成下候也、

鈴木修理 (印)

己六月廿九日 下間大藏卿 (印)

【史料紹介】東本願寺寛政度再建における末寺募財史料

青木 馨

三州青野村

慈光寺殿

(包紙)

寛政九己歲^(力) 六月十六日会